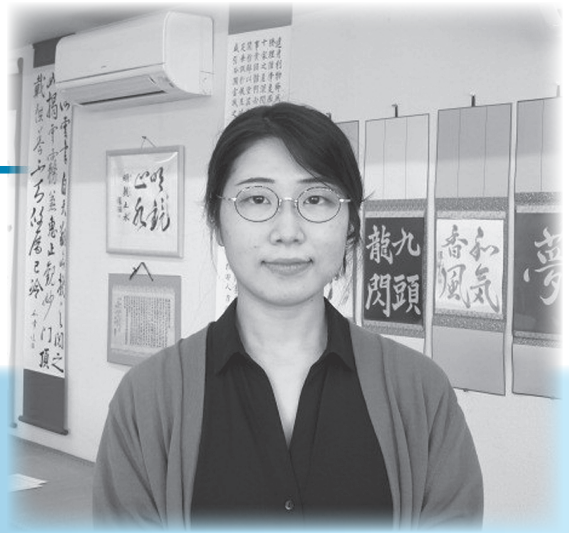




黒板アート作家

すずき らな
鈴木 蘭菜さん



千葉県在住の鈴木蘭菜さんは黒板アート作家として、学校の黒板に大きな絵を描く黒板アート作品を多数制作されています。絵を描き、その作品を消すパフォーマンスは見る人に大きな感銘を与えています。他にもアトリエ兼進学塾ミズヤでアートコースを担当するなど、地元だけでなく、メディアでも幅広く活躍中の鈴木さんにインタビューしました。

絵を描きはじめてきっかけ

きっかけは皆と同じだと思います。子どもの頃にキャラクターや絵本を並べて写し絵したり。学校の休み時間に自由帳にお絵描きして、同じように絵を描いている友達と見せ合いっこしたり。もともと絵やマンガを描くのが好きだったので、もっと専門的にやりたいと思い、高校では美術部を選択しました。顧問の先生は一生懸命見て下さる、ちょっと体育会系な方でした。夜遅くまで絵を描いたり、展覧会に向けて皆で頑張りました。また、小さい絵ではなく、大きい絵を描くことになり、先生が大きいキャンバスを買ってくれました。もともとは自由帳などの自分で用意できるものに描いていましたが、大きく描くのが楽しいって思うようになりました。他にも課外活動で絵を描きました。描いている時、通りすがりの方が声をかけてくれたり、見て下さる方がほっこりしてくれたり、絵を描く事で会話が生まれました。私の描いた絵がきっかけでコミュニケーションが生まれることを単純に楽しみたいって感じたり、絵に興味を持ってもらえたらいいなって思いましたね。

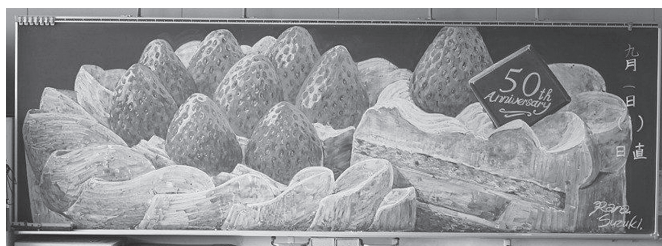
コロナ下でのサプライズ

新型コロナウイルスの影響で、人が集まるイベントができなくなってしまいました。大きい絵を描くのが得意なので、コロナ前は人がたくさん集まるお祭りみたいな会場で、ライブペイントをやっていました。その他にも、子どもと絵を描くワークショップや人を集めたイベントが好きだったので、それができなくなり、形を変えてZoomでイベントを行うなどの工夫をしました。

黒板アートの活動はコロナ下でも積極的に行っていました。昨年、学校が休校になった際、学校に連絡して黒板アートのサプライズをやりまして宣伝をしました。その時は全て無償で、ボランティアとして、いろんな学校に描きにいかせていただきました。黒板アートを見て子どもたちはもちろん喜んでくれましたが、先生たちもとても喜んでくれて、たくさん写真を撮られていました。黒板アートで皆が嬉しい気持ちになってくれて、私も嬉しかったですね。

黒板アートと子どもたちの個性

黒板アートは質感や影を大事にしています。赤チョークと呼ばれるものは実際にはピ



ンク色で、赤はありません。上手く色を組み合わせたり、黒板の地の色を使ってチョークにない色を表現するようにしています。黒板アートの作品にもよりますが、ひとつの絵を完成させるのに7時間くらいかかることがあります。主に日曜日に絵を描き、月曜日に子供たちが登校してきて驚き、喜んでくれる。他のクラスにも私以外の方が描いていて、子どもたちがそれを見に行ったり、毎回盛り上がりします。作品は先生に相談しながらテーマを決めますが、そのクラスならではのものを描くので、とても喜んでもらえています。そして、先生に作者として紹介してもらい、その作品について解説をした後、一時間目が始まる前に絵を消すのですが、消さないでー！って声が上がります。カウントダウンして消し始めると悲鳴が上がることも。でも、面白いのが、消したい人？って聞くと、みんな手を挙げるんです。作品を消す時、子どもってかなり個性が出るんですよ。もったいないから端を少し消す子、私のマネをして勢いよく消す子、私のサインを狙って消す子、物に沿って消す子もいて。作品を消すことによってわかることがあったので、それは大きな発見だと思っていました。

地域に根差した活動

以前、香取市の廃校になった小学校で、親子で参加できるワークショップを開催したことがあります。A4サイズの小さい黒板にハロウィンの絵を描いてもらって、持ち帰ることができるイベントでした。チョークとは違う消えない画材を使用しましたが、オレンジ色が無かったので、パンプキンを再現するときは黄と赤を混ぜてオレンジ色になるよって

教え、子どもたちは学びながら絵を描いてくれました。また、高校生たちと歩道にお弁当の絵を描いたりもしました。多古町の名産品多古米を入れて、航空写真に写ったらしいね、なんて話をしながら制作しました。高校生と一緒に制作すると、地元にも愛着を持ってもらえるし、地域の活性化に繋がったらしいなと思っています。

子どもたちには好きなことを続けて欲しい

私はアートのことしか語れませんが、子どもたちには好きなものを突き詰めていってほしいなと思っています。私は小さい頃に落書きしていたことが、今の絵を描く仕事に繋がっていて。紆余曲折ありましたが、絵を描くのが好きっていう思いは大人になっても変わらないので、好きな事を好きって堂々とやって続けるのってすごく大事だと思います。それは何でもいいと思います。私は絵でしたけど、ゲームとか、本を読むとか。文化的な活動だけじゃなくてスポーツとか。好きなことを続けてもそれが職業にならない人も、もしかしたらいるかもしれません。でも、大人になって仕事をしているとき、子ども時代に遊んで学んだことが生きるなって思っています。なので、今好きなことを夢中でやってほしいなと思っています。

今後やりたいこと

今後も大きい作品を描く機会があればどんどんやっていきたいです。Googleの地図に場所を登録できる機能があるのですが、私の作品がここで見られるっていうのを増やしたいなと思っています。それで多くの人に見て欲しいですね。他にも、色々なことに挑戦したいです。多くの子どもたちといろんな作品に挑戦して、アートの面白さを伝えられたらいいなと思っています。

鈴木さんの紹介ページ

